

市域を超えてつくる 行方不明者対策

愛知県みよし市
福祉部長寿介護課
保健師 近藤 隆彦



みよし市の基礎情報

平成28年4月1日時点

人口	60,365人	65歳以上人口	10,127人
高齢化率	16.7%	第6期介護保険料	4,040円
要介護認定者数	1,134人(H26末時点)	要介護認定率	
日常生活圏域数	1か所	包括数	直営：1か所

認知症地域支援推進員数： 3名（うち行政：1名、その他：2名）

地域の特徴：

- ・名古屋市と豊田市の間に位置し、人口増加しているが、高齢化率は低い。
- ・約32Km²と小さなまち。古くは農村であり、名産はかき・なし・ぶどう。
- ・桜の名所でもある三好池は、カヌーのまちの象徴でもあり、その道の人には有名。
- ・夏に三大夏まつりがあり、大提灯は世界一の大きさと思われる。
- ・認知症施策は、認知症サポーターキャラバンで市部門日本一のまち。



第6期介護保険事業計画における 認知症施策の全体像



※赤字が推進員が関わった又は関わっている事業

みよし市の推進員の役割

配置場所	市役所本庁	市民病院	訪問看護 ステーション
職種	保健師	社会福祉士 (MSW)	看護師
主な役割	<ul style="list-style-type: none"> 新ルンジプランの推進 認知症ケアパスの普及 初期集中支援チーム編成 認知症予防 在宅医療介護連携 家族介護支援 認知症カフェ 行方不明者対策(徘徊等) 認知症体験者養成 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療介護連携 在宅医療推進 拠点病院連携調整 	<ul style="list-style-type: none"> 初期集中支援 在宅医療推進

※H29以降に包括増設予定のため、各包括にも配置予定。



<将来構想>

各ポジションの強みを生かした役割分担により施策の推進を加速させる。

今回ご紹介する事業・取組み

～徘徊行動等による行方不明者への対応～

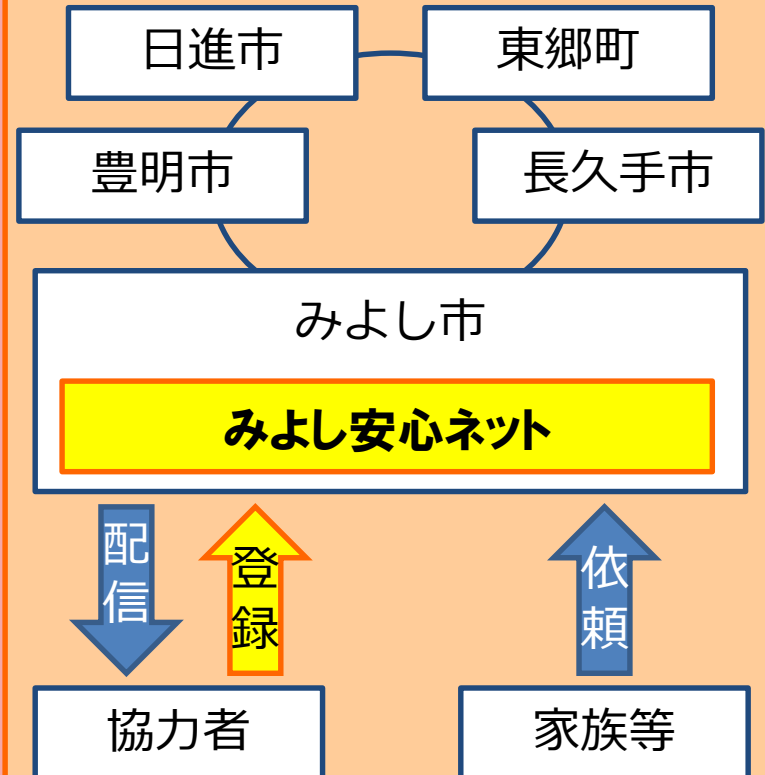
徘徊行動等による行方不明者への対応の全体像

搜索模擬訓練



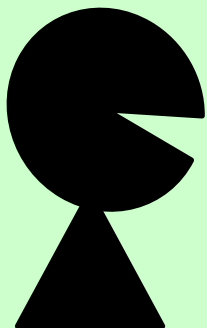
あいちオレンジネットワーク

登録制
(予定)



行方不明者への対応に取り組むきっかけ、課題意識

キッカケその1：
認知症の人の家族の発言



- ・徘徊しそう
- ・常に一緒に無理
- ・閉じ込めとくしかない
- ・徘徊しちゃったら、あなた一人じゃ**搜索無理**

- 介護者の思わぬ一言(上記)
- この状況を継続させてはダメ
- まちづくりとしてじっくり対応を考えていくべきだ。

キッカケその2：
地理的要因

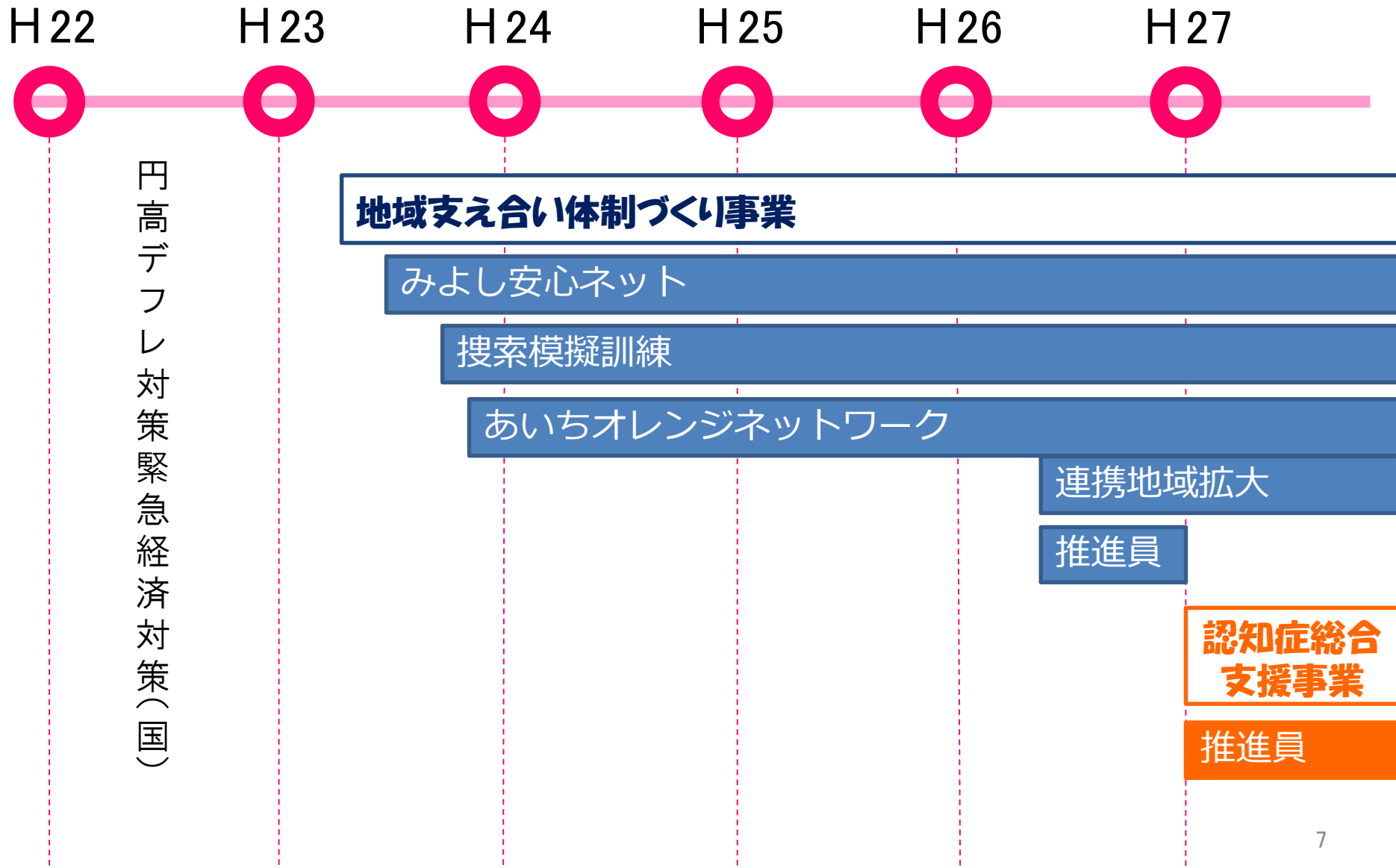


- 隣り2市町が認知症モデル事業
- 市単独では効果限定的
- ノウハウをゼロからは非効率

<目指したもの>

徘徊行動があってもみんなで支えられるまちにしたい。

行方不明者への対応の事業・取組みの流れ①



行方不明者への対応の事業・取組みの流れ②

県内初！3市町合同搜索模擬訓練(H23)

誰と

●課内の上司、同僚

→ イベント企画や補助金事務の支援が必要だった

●日進市・東郷町

→ 先行事例からの享受

●H26からは長久手市・豊明市加入

→ さらなる広域化

搜索模擬訓練

合同訓練実施(H23)

- 年1回地区と協働実施(H24～)
- 大型商業施設内で実施(H26)

あいちオレンジネットワーク

みよし安心ネット

- メール配信システム導入(H23～)
(みよし安心ネット)
- メールの相互配信連携実施(H23～)
(あいちオレンジネットワーク)
- 相互連携地域拡大(H26)

行方不明者への対応の事業・取組みにおける工夫 ～推進員として心がけたこと～



広域対応を前提に仕組み化、ネットワーク化

- 本市の行方不明の事例から、広域連携が必須と考えていた。
- ネットワーク化する初期から広域を前提に仕組みを作った。
- 近隣市町の先行事例、ノウハウを得て効率的に体制整備した。



現場主義を体現化、トップが参加する訓練に

- トップの現場認識を促すため、挨拶のみではなく、訓練への参加をお願いした。
- 関係部署や市内事業所等へも積極的に参加を呼び掛けた。



決して順風満帆ではなかった



訓練初年度は、参加者一桁

→参加しやすい日程、広報方法の見直し、内容の再構築を繰り返すよう改善実行



メール会員数は伸び悩む

→無関心期にある人まで含めて一気に急増させることはせず、認知症サポーター養成講座等で地道にコツコツへの戦略転換



広域連携の拡大は、なかなか進まない

→拡大よりも今ある枠組みでの連携の深化を優先へと方針転換

行方不明者への対応の事業・取組みに 推進員が関わったことによる成果

1. 訓練の定期実施(年1回)を確立した。

2. 防災担当部署と協働でメールの仕組みができた。

3. 近隣市町のノウハウを得て、効率的に実施した。

4. 認知症でない事例にも応用できた。

→上記1～3は、市内部に推進員を配置した効果

赤字は、推進員の仕事である「連携」による効果

上記4は、偶発的な事例であったが、本事業の応用性を確認できた。

推進員としての課題

認知症初期集中支援チームの設置
準備に忙殺

認知症ケアパスの内容見直しに手
がつけられない。
普及が進まない。

認ともって・・・



認知症カフェを今後どう
するか議論できない。

「地域で見守る」ために
地域力をどう高めるのか

認知症地域支援推進員の増員時の
役割分担をどうしよう。

今後の活動の方向性について

認知症の人にやさしいまちは、高齢者にやさしいまち



まちづくりの課題は、生活支援等全体として考えていく必要がある。



“オールみよし”による地域包括ケアシステム構築

仲間づくり(人材育成)

推進員の皆様へ



Facebook



「全国認知症地域支援推進員連絡会—すいしんネット—」検索



全国の推進員で交流しましょう！

ご清聴

あ

い

が

と

う



還暦



緑寿



古希



傘寿



白寿



百寿

ございました。